

教育改善に向けた学生調査の分析： GPAとの関係をもとに

- 久保田 祐歌(関西福祉科学大学社会福祉学部/
IR・FD・アドミッション推進室)
- 木村 貴彦(関西福祉科学大学健康福祉学部/
IR・FD・アドミッション推進室)



1

1. 関西福祉科学大学の概要



- 学校法人 玉手山学園
- 2019年現在 5学部
- 1942 玉手山女子高等女学校
 - 1965 玉手山女子短期大学
 - 1966 関西女子短期大学
 - 1997 関西福祉科学大学
(社会福祉学部)
- 社会福祉学部(140)
 - 心理学部(110)
 - 健康福祉学部
(健康科学科:80・福祉栄養学科:80)
 - 保健医療学部リハビリテーション学科
(PT専攻:80・OT専攻:50・ST専攻:40)
 - 教育学部教育学科
(こども教育専攻:50
発達支援教育専攻:50)
 - 大学院

2

IR・FD・アドミッション推進室



業務(大学・短期大学)

- ・教学IRに関する事項
- ・全学的なFD活動の企画に関する事項
- ・入学者の追跡調査などによる選抜方法の妥当性検証に関する事項
- ・入試・学生募集に係る企画立案及び入学者選抜試験の成績評価に関する事項

2019年度 室員:13名

室長1名(教員)、専任職員1名、非常勤職員1名、副室長1名(教員)、
室員(教員)大学5名、短大2名、アドミッション・オフィサー(入試広報
部職員)2名

3

2. 学生調査の概要



■アセスメントポリシー

教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、
3つのポリシーに則した独自の評価指標に基づき、学生の学修
成果を測定・評価するよう設定

■機関レベル(全学)の学生調査

学修習慣実態調査

学生満足度調査

PROGテスト(1年次・3年次)

4

アセスメントポリシー



レベル	入学前・入学直後	在学中	卒業時
機関レベル(大学)	<ul style="list-style-type: none"> 各種入学試験 PROGテスト(1年次) PROGテスト(1年次) 	<ul style="list-style-type: none"> 進学状況(陸続含む) (中途学卒) 休学状況 PROGテスト(3年次) PROGテスト(3年次) 学生満足度調査 学修習慣実態調査 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率 学位授与数 就職率 進学状況
教育課程レベル (学科・専攻)	<ul style="list-style-type: none"> 各種入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> GPA カリキュラムマップに基づき能力別評価 進級率・留年率 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 資格・免許取得状況 単位取得状況 国家試験合格率、合格者数
科目レベル (個々の授業)	<ul style="list-style-type: none"> 入学時学力確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価 授業アンケート 	

5

3. 成績評価とGPA制度



■成績評価

関西福祉科学大学学則(抜粋)(学修の評価)


第19条 試験等の成績評価は、秀、優、良、可、不可をもって表し、
秀、優、良、可を合格とする。

■GPA制度

- ・全学的導入は2017年度入学生から
- ・学修指導等に活用
- ・学生への成績通知書に本人のGPAを記載

6

本学のGPA制度




■関西福祉科学大学「履修等に関する内規」(抜粋)(成績評価)
第19条3 成績評価におけるGP(grade point)は以下のとおりとする。

評価	点数	GP
秀	100-90	4
優	89-80	3
良	79-70	2
可	69-60	1
不可	59-0	0

成績評価の対象外の場合(欠席、放棄)は、不可と同様に扱う。

7

本学のGPA制度




■関西福祉科学大学「履修等に関する内規」(抜粋)
(総合成績評価)
第19条の2
前条第3項のGPを用いて、履修科目のGPA(grade point average)を算出し、総合成績評価を行う。

2 GPAは以下の計算式を用いて1単位当たりの平均値を算出する。

$$GPA = \frac{\text{(評価を受けた各授業科目のGP} \times \text{当該科目の単位数)} \text{の総和}}{\text{評価を受けた授業科目の総単位数}}$$

8

4. 学生の学修行動とGPA



想定

- 学生の学修行動は、学生のGPAの数値によって異なるのではないかと
- GPAと関連する学修行動を明確にすることで、関連する学修行動について教育、設備面での改善を促すことができるのではないかと

内容


- 「学修習慣実態調査」と学生のGPAとの関係について分析

対象

- 2018年度1年生、2年生の2018年度「学修習慣実態調査」回答結果
- 2018年度1年生、2年生それぞれの春学期GPA

9

学修習慣実態調査



目的:教育プログラムの開発や学修環境の改善、学修の指導など、大学の教育に活用する

対象:全学部の1年生～4年生


方法:Webによる実施(Manabaのアンケート機能を使用)
回答項目は35

実施期間:10月～11月

結果共有:報告書を作成→執行部、学部長へ報告→全学的に共有

10

分析に使用した設問




■設問:今年の春学期について、どのように学習に取り組みましたか?

■4段階評価により回答

[4] あてはまる
[3] ある程度あてはまる
[2] あまりあてはまらない
[1] あてはまらない

11

今年の春学期について、どのように学習に取り組みましたか?



Q19 計画をたてて勉強した
Q20 授業の内容について他の学生と議論した
Q21 提出期限までに宿題を完成させた
Q22 授業をつまらなく感じた
Q23 授業で配布された資料等をきちんと整理した
Q24 興味がわからない科目でもきちんと勉強した
Q25 授業に遅刻した
Q26 授業中は黒板に書かれていない内容もノートを取った
Q27 他の学生と一緒に勉強した
Q28 研究や宿題のために図書館の情報を利用した
Q29 アルバイトのために授業を欠席した
Q30 授業中に居眠りした
Q31 授業でわからなかったことは自分で調べた
Q32 困難があってもやる気を失わない

12